ほけんだより

2021年8月

気をつけよう！夏の感染症と熱中症

イートンちどり保育園

どうして起こるの？熱中症

汗がかけなくなることで体温調節ができなくなるために起こります。体調にもよりますが、気温32℃以上、湿度60％以上の環境で、十分な水分補給をしないで運動すると発症しやすいといわれます。さらに子どもは、大人よりも脱水症状を起こしやすいので、より注意が必要です。

熱中症？と思ったら

★涼しい所で休ませる

★水分の補給

★体を冷やす

こんなときは救急車を

- □意識がない
- □水分の補給ができない
- □呼吸が不規則で脈が弱い
- □唇、つめ、皮膚が青紫に（チアノーゼ）
- □けいれんを起こしている
- □熱が下がらず、ますます上がっていく

ヘルパンギーナ

コクサッキーウイルスA群などに飛沫感染することで発症。
高熱、のどの痛みが特徴。のどに水ほうや潰瘍（かいよう）ができて痛みがひどく、乳児の場合はミルクが飲めなくなるほどに。

咽頭結膜熱（プール熱）

アデノウイルスによる飛沫感染。目やにや便からうつることも。プールの水を介して感染することがあるので、「プール熱」と呼ばれる。39℃以上の発熱とのどの痛みがあり、目のかゆみ、痛み、充血、涙など、結膜炎のような症状が出るのが特徴。

流行性角結膜炎

目とまぶたの裏側を覆っている結膜にアデノウイルスが感染して起きる炎症。ウイルス性の結膜炎の中でもっとも感染力が強く、プールの水だけでなく、タオルの共有や手指の接触によっても感染する。最近は季節に関係なく発症する傾向がある。
まぶたのはれや異物感、痛み、充血。目やにで目が開けられなくなったり、発熱や下痢を伴うことも。

手足口病

コクサッキーウイルスやエンテロウイルスによる飛沫感染。
手のひらや足の裏、口の中に小さな水ほうや赤い発しんができ、熱が出ることも。

水いぼ

ポックスウイルス群が原因。タオルやビート板の共有、体の接触などで感染する。
粟粒大のいぼが胸や腹、わきの下などにできて広がる。

とびひ

虫刺されや湿しんをかきむしったあとに黄色ブドウ球菌が感染して起こる。症状がどんどん広がっていくことからこの名称で呼ばれる。
皮膚が弱いとかかりやすい。
皮膚に水ぶくれができ、破けて赤くむけたような状態になる。発熱することも。